

祝 道道北檜山大成線 新成～太田 開通



◎工事着工から約55年もの歳月をかけ念願の開通

道道北檜山大成線開通

4月24日、道道北檜山大成線（新成～太田）が開通しました。

道道北檜山大成線は北檜山区豊岡から大成区宮野までの海岸線を結ぶ約34キロメートルの道路で、この開通により町内を1周することが可能となります。



開通日、太田側から1番
に通行したのは…

今金町
吉村幸作さん (85歳)

⇒ 新聞で開通を知り、漁師をしていた父親がお世話になった太田地区で、長年工事を続けていたトンネルだったので、ぜひ通ってみたいと思い、この開通の日に駆けつけたそうです。

当日は、太田トンネル側で開通を祝う式典が開催され、関係者ほか来賓約80名が出席しました。式典ではテープカットが行われ、約半世紀を経てつなごうとした道道北檜山大成線の開通を祝いました。

これにより、行政サービスの効率化、産業及び観光の振興、緊急時のルート確保などに大きな期待が寄せられます。

このたび開通したのは、北檜山区新成から大成区太田までの約7キロの区間にある日屋部（にっちゅうべ）トンネル約1161メートルと、太田トンネル約3360メートル（道道としては一番長いトンネル）が完成したことによるもので、工事着工から約55年もの歳月を要しました。

太田と太櫓地区に残る伝説

『太田神社』

■1445(享徳3)年、若狭の国より武田信広が一族70余人を率いて北上するや、まず奥尻島に停船し、対岸の情勢を探ろうと、人なき蝦夷地へ上陸した。

■たまたま川の下流に先住民が3人、高くそびえたつていて峰を仰いで、一心に礼拝している姿を見つけ、何かと思い、呼びよせ地名とその礼拝する訳を問うてみた。

■先住民が言うには、あの山頂には靈神「オホタカモイ」という神をたてまつり、疾病災厄を救い、航海の安全を護り、その靈験は、はなはだ著しい結果で表れているので、昔から蝦夷地の守護神として尊崇していると答えた。

■武田信広はこれを聞き、さっそく洞窟まで登ってそこを本殿とした。そして太田山大権現の尊号を奉り、「武運長久」、「一身息災」を祈り、非常に深く信仰した。

■それ以来、この沖合いを航海するもので、その安全を祈願しない者はなく、社前の沖合いを通る船はみんな帆を降ろして通過したので、この岬の一角を「帆越岬」と呼んだということである。

■言い伝えによると、すべて船舶の大小を問わずに、太田山前面の海上を航海するときは、帆を下げなければ進行の自由を失ってしまったとのことである。

■そして、慶応3年(1868年)には初めて山麓の海岸に拝殿を作って参拝者の便宜に供したとされている。

『弁天岬と立岩』

■弁天岬は太櫓海岸の入江にあり、5~6m海へ突き出し、奇岩怪礁よりなつて景色がよく、巖上に弁天社を安置してある。

■地元の古老の話では、この弁天社に安置する弁天様の御神体は女の神さまで、腕が8本ついているといわれている。

■あるとき、弁天様が屋根の柱(まさ)ぶきを始めたとき、風で柱が吹き飛ばされてしまい、上手に柱をふくことが出来なかった。

■そこへ主人が来て屋根に上がり、柱の上に石をあげながら、次から次へと主人が1人で柱ぶきをしてしまった。

■それを見た弁天様は、女手が沢山あつても、男1人にも及ばないと知り、男性を尊敬する神ともいわれており、主に漁師たちが多く信仰している神である。

■また明治40年(1907年)能登国より、船本某という船頭さんが弁天財船で小樽に向けて航海中、時化(しけ)のために小樽港へ行くことができず、この弁天岬に荷物全部をおろして避難した。

■この荷物の中に小樽の神社に向けて積んであった「御神輿」も一緒に降ろされたので、大漁を祈願する漁民らの手で地元の事比羅神社におさめられた。

■この「御神輿」は300kg以上あるといわれ、周囲の飾りつけが豪華で、季節の大祭になると若衆ら30人ぐらいでかつぎ、町をねり歩くのである。

■また弁天岬のすぐ近くには「立岩」があり、この立岩は鵜泊海岸に立っていて、高さ約30m、周囲約30mもある円い大きな自然岩。

■この「立岩」は昔、源義経が夷人たちから逃れたと思ひ、安心して岩の上に姿を現わしたとき、追ってきた夷人たちに見つけられ、泳ぎの達者だった義経が海中に飛び込み、泳いで向こうの岩にたどりつき、濡れた着物を岩の上で干した。そのしずくの跡が岩のしま模様となって残っているという伝説がある。また、追手から逃れるため、弁慶が縄で縛って投げた岩で、しま模様はその際にできた跡とも言われている。

※檜山の史跡と伝説(「葉梨孝幸」氏)より引用



日屋部トンネル北檜山側

新規開通区間
7 km



「北檜山大成線」は、せたな町北檜山市街地区から太櫓地区、太田地区を経由して大成区に至る一般道道です。開通により、交通不能区間の解消による新たな交通ネットワークの構築、孤立解消、地域発展に寄与する道路となります。

3 水産品の物流利便性向上

北檜山大成線の沿線地域は、全道でも有数の水揚げ額を誇り、特にスルメイカは高速道路を利用して札幌市場に輸送されるケースも多く、北檜山大成線の開通により水産品の流通利便性の向上が見込まれます。

1 行政サービスの効率化

旧瀬棚町、旧北檜山町、旧大成町の合併に伴い、多くの機能が集約・再編されました。北檜山大成線は、消防・ゴミ処理をはじめとした町民サービスの効率化に大きな役割を果たすことが期待されます。

4 観光地へのアクセス向上

北檜山大成線沿いには、北海道最西端の地(尾花岬)があるほか、太田神社やふとろ海水浴場など観光スポットも多く存在しています。北檜山大成線の開通により新たなドライブルートとして期待されます。

2 孤立解消・救急搬送ルート形成

北檜山大成線は沿線に広がる集落の生命線としての役割を担っています。不通区間の開通によりこれらの集落の孤立化が解消されるだけでなく、せたな町国保病院までの救急搬送ルートが確保されます。